

新型インフルエンザ等対策推進会議（第20回）
(令和7年12月1日)

資料3

エムボックスへの対応について

令和7年12月1日
厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

病原体

- ・ ポックスウイルス科オルソポックスウイルス属エムポックスウイルス
- ・ クレードI (Ia及びIb、コンゴ盆地型) とクレードII (IIa及びIIb、西アフリカ型) に分類される。

臨床症状・感染経路

- ・ 症状：発疹、発熱、筋肉痛、頭痛、咽頭痛、リンパ節腫脹、肛門直腸痛、その他皮膚粘膜病変。
- ・ 感染した人や動物の皮膚病変・体液・血液との接触（性的接触を含む）、患者との接近した対面での飛沫への長時間の曝露(prolonged face-to-face contact)、患者が使用した寝具等との接触等により感染。
- ・ クレード IIb については、男性間性交渉での感染が主体と考えられているが、クレード I については、男性間性交渉での感染が主体とは考えられていない（男女問わず小児や成人で報告されている）。

疫学・経緯

- ・ 2022年5月～秋にかけて、クレード IIb による国際的な流行が発生し、WHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」(PHEIC) を宣言(2022.7-2023.5)。
- ・ 2023年秋以降、コンゴ民主共和国 (DRC)においてクレード Ia 及び Ib の大規模な流行が発生(※1)。2024年夏以降周辺国での流行拡大が確認され、2024年8月15日にWHOがPHEICを宣言。
- ・ 2025年9月4日、第5回IHR緊急委員会が開催され、緊急委員会は、WHO事務局長に、現在の状況はPHEICに該当しない旨を勧告。同月5日、WHO事務局長は、緊急委員会の見解等を踏まえ、PHEICの終了を宣言。
- ・ 政府では関係省庁対策会議を2024年8月16日に設置、2025年9月9日に廃止(その間、持ち回りで3回開催)。

現状と今後の取組

- ・ 国内では、2025年11月20日時点で、261例の確定症例 (死亡例1例) が報告されている。(クレードIを1例含む)
- ・ 国内では、引き続き、予防・診断・治療ができる体制を維持していく(※2)。

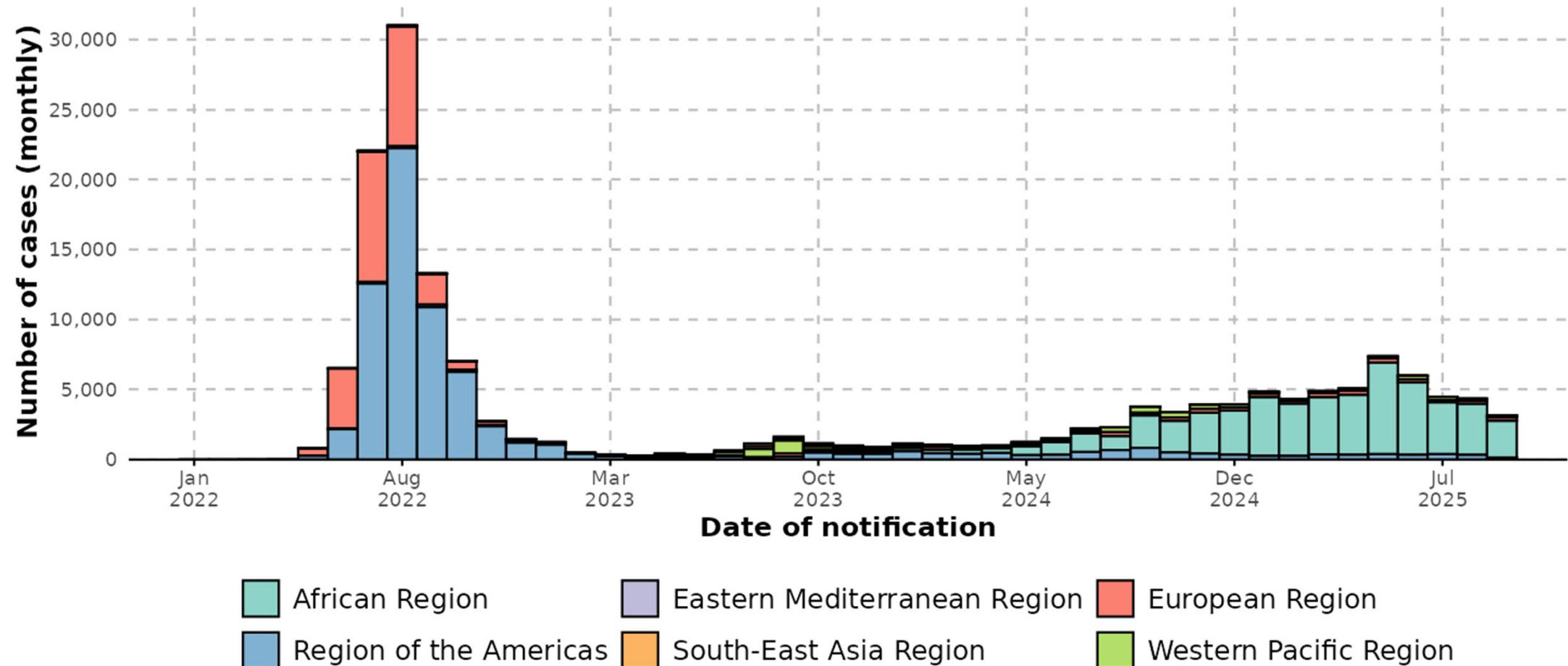
※1 これを受け、DRCから日本に対しワクチン供与の要請があり、日本からDRCに対して、計305万人分のワクチンを供与。

※2 現時点得られている知見によれば、クレードIについてもクレードIIと同様の予防・診断・治療(対症療法)が有効とされている。1

WHO 地域別のエムポックス発生状況の推移 (2025.11.06時点)

Trends: mpox cases

data as of 30 Sep 2025



Source: WHO